

ライフケアガーデン熱川 本館

症例概要 利用者:90代、女性 要介護1

病名:腰部脊柱管狭窄症、糖尿病、認知症、癒着性腸閉塞、巨赤芽球性貧血

経過:成人後、結婚を機にH町に移り住む。ホテルで雑貨店を経営されていた。老後は、専業主婦として町内にて暮らし、その後ご主人が3年前に他界され独居になったため LCG 熱川へ入居。

内 容

入居前は、血糖値コントロール不良により熱川温泉病院にて入院加療されていた。退院後は、ご本人はご自宅を希望されていたが、認知症状が次第に強まり、周囲のスタッフにより当施設への入所を勧められ LCG 熱川への入居が決まりました。旦那様を亡くされた記憶がよみがえるとの理由もあり、入居されたばかりの頃は、「早くここを出たい」「帰りたい」との発言が多く聞かれ、あまり周囲の方と交流せず、部屋に引きこもりがちであった。

そこで、まだ不安定であった歩行の練習を開始。廊下を歩くことで、出歩く動機が生まれ、他の入居者さんやスタッフと声を交わすことが多くなりました。また、節分の豆まきやスイーツバイキングなど、室内レクリエーションやイベントに参加していただくことで、前向きな性格が引き出され、笑顔が見られるようになってきました。

さらに、隣の部屋の利用者さんが同じようによく歩かれ、コミュニケーションも良好で、意気投合し、日中はともにロビーに出て過ごされたり、レクリエーション担当者の勧めで、お二人でお花を植えたりという園芸活動も行うようになりました。

すっかり明るくなった利用者さんは突然、「海」が見たいと言うので、すぐにドライブを企画。太平洋の海を見ながらドライブを楽しみ、また桜も見たいの言うので、桜の花も見に行きました。利用者さんはとても喜んでくださり当施設での生活をとても楽しんでいきます。

ご本人の不本意ながらも、独居困難となったために入居された方でしたが、イベント参加や仲の良いお友達ができることで、引きこもりがちな生活から社会的となり、施設での生活を満喫されるようになったケースです。